

東京ベイ e S Gプロジェクト

～ 東京湾から日本の未来を創り出す ～

(Version 1.0)

東京ベイ e S Gプロジェクト (Version 1.0) 目次

▶ 「社会の構造改革」を速やかに実装する	1
▶ 危機を乗り越え、50年・100年先の未来の東京を創る	2
▶ ベイエリアを舞台に未来の東京を築く	3
▶ 「東京ベイ e S Gプロジェクト」の実現に向けた戦略	6
戦略① ゼロエミッションの実現、水と緑溢れる都市づくり	7
戦略② 最先端のデジタルテクノロジーを実装	8
戦略③ グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開	9
戦略④ サステナブルな都市・交通ネットワークを充実	10
▶ 「東京ベイ e S Gプロジェクト」実現のステップ	11
▶ 目指す姿のイメージ Step I	12
Step II・III	14
▶ 「東京ベイ e S Gプロジェクト」の今後の展開	16
先行プロジェクト：臨海副都心エリア	17
先行プロジェクト：中央防波堤エリア	18
▶ ベイエリアから世界へ「人類の未来の水準点となる都市の姿を世界へ広げる」	19

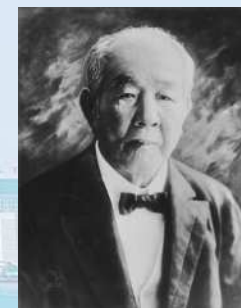
「社会の構造改革」を速やかに実装する

- 人類は、**新型コロナウイルス感染症という100年に1度の危機に直面**しており、我々の暮らしや社会経済活動は大きな打撃を受けている。密を避ける活動や働き方の変革など、社会全体のありようが問われ、また、**我が国が世界のデジタル化の潮流に大きく取り残されている**ことや、経済成長の面でも後れを取っている状況など、様々な課題が浮き彫りになった。こうした状況を踏まえ、**これまでの仕組みやアプローチを根本的に改革する**必要性に迫られている。
- 人類を脅かしているのは感染症だけではない。**気候変動の影響は人々の身近な生活領域まで及び、地球環境を取り巻く問題は歴史的な転換点を迎え**ており、気候危機への対処も待ったなしの課題である。
- 昨年、各界の有識者で行った、「**ポスト・コロナにおける東京の構造改革**」についての議論の中では、「**D Xがもたらす東京の新しい未来を実現すべき**」、「**自然との調和など、コロナ禍を踏まえた都市のリデザインを進めるべき**」、「**アジアで一番強い経済・金融都市を目指すべき**」、また、「**今やらないと世界から取り残される危機感をもって、東京の構造改革を進めるべき**」などの提言を頂いた。
- **コロナ禍の今だからこそ、「感染症の脅威」と「気候危機」の2つの危機を乗り越えた先にある未来の東京の都市の姿を構想し、その実現に向けて、具体的な「社会の構造改革」を速やかに実装する**必要がある。最先端技術を活用し、東京の安全・安心を高め、コロナ禍でダメージを受けた経済の**持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」**にも繋がるようなまちづくりを進めていく。

危機を乗り越え、50年・100年先の未来の東京を創る ～ 偉大な先人たちの精神を受け継ぐ ～

- 歴史を振り返ると、東京の礎を築いてきた先人たちは、「持続可能性」を希求し、先見性と確固たる信念、絶え間ない努力で幾多の困難を乗り越え、ビジョンを描いてきた。
- 「日本資本主義の父」と呼ばれる**渋沢栄一**は、「国全体が豊かになるためには、経済発展の利益を独占するのではなく、社会に還元することが大切である」という考えのもと、**持続可能な社会の実践**に努めた。
- 関東大震災後、「帝都復興計画」を策定した**後藤新平**は、人の流れや物流の変化など、**50年・100年先の未来に住む人々を見据えた都市づくり**を進めた。
- 感染症と気候変動という2つの危機に対処しながら、ポスト・コロナにおける都市モデルを描くに当たっては、偉大な先人たちの精神を受け継ぎ、**「持続可能性」と「経済・金融」を両立するため、最先端の「DX」を鍵に、50年・100年先を見据えた都市のあるべき姿**を描いていく。
- この考えのもと、**本来の「ESG」(Environment, Social, Governance)の概念に加え**、以下の想いを込めて、**「東京ベイeSGプロジェクト」**として検討を進める。

e : 環境 (environment) に加え、**エコロジー** (ecology) 、
経済 (ecconomy) 、新時代を切り拓く**画期的な技術** (epo^{ch}-making)
SG : 渋沢栄一、後藤新平の精神を受け継ぐ (Shibusawa、Goto)



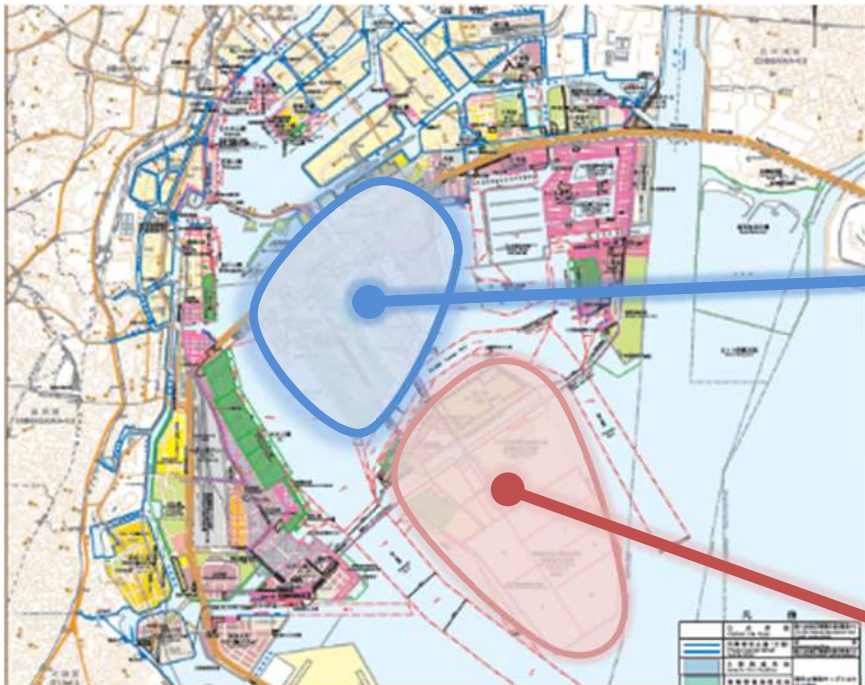
渋沢栄一
(写真：国立国会図書館)



後藤新平
(写真：国立国会図書館)

ベイエリアを舞台に未来の東京を築く

- 水辺空間という「自然」に恵まれたベイエリアには、日本を代表する物流ターミナルに加え、商業機能、エンターテインメント、東京2020大会関連施設など**多様な魅力を持つ「臨海副都心」**や、将来的には**約1,000haの広大な土地となる新しい埋立地**といったポテンシャルが存在する。
- 高いポテンシャルを活かし、**このフィールドを舞台にプロジェクトを先行して展開し**、デジタル時代においても「ここにしかない」魅力を求めて人々が集まり、気候危機を乗り越えた持続可能な都市を実現する。
- 持続可能性と経済を両立させた都市モデル**を社会全体で共有し、ともに創り上げていくことにより、**東京の国際的なプレゼンスをさらに高める**とともに、**世界が目指すべき未来の都市像**を発信する。



- 職・住・学・遊の機能や、水に親しめる公園などがバランスよく立地する、ポテンシャルの高い都市
- 東京2020大会関連施設、民間開発による商業施設、ホテル、ホールなど、新たな魅力が創出されている



有明アリーナ
(有明北地区)



東京ビッグサイト
(有明南地区)



お台場の夜景
(台場地区)

- 他に類を見ないポテンシャルを持つ新しい埋立地

都市をリデザインする ～サステナブルな未来の都市のイメージ～



世界最大の都市であった「江戸」では、衣食住のあらゆる場面でリサイクル・リユースが行われる**循環型社会（サーキュラーエコノミー）**が成立し、「**自然**」と調和した**豊かな街**が育まれてきた。

江戸時代の伝統や日本企業の高い環境技術に再び着目し、現代の最先端のテクノロジー（デジタルテクノロジー、グリーンテクノロジー）をいわば「使い倒す」など「**社会の構造改革**」を**速やかに実装**することで、世界の大都市のモデルとなるような、「**自然**」と「**便利**」が融合する**持続可能な都市**を創っていく。

豊かな緑に囲まれ、水を身近に感じられる、生物多様性にも富んだ、
人間中心の空間が創出された都市

世界最高の人材・知能の集積により、

新たな価値が次々と創造されていく都市

感染症の脅威に打ち勝ち（Pandemic-Ready）、

自然災害に強く（Disaster-Ready）、強靱な（Resilient）都市



「東京ベイ e S Gプロジェクト」の実現に向けた戦略

① ゼロエミッションの実現、水と緑溢れる都市づくり

- ・スマートグリッドをはじめとするグリーンテクノロジーの活用により、域内のエネルギーを再生可能エネルギーと水素を柱とした100%クリーンエネルギーで賄う
- ・公園や緑地など様々な緑を増やすことで、ベイエリアの水辺を豊かにする

② 最先端のデジタルテクノロジーを実装

- ・官民を挙げ日本の本気を魅せるデジタルテクノロジーを駆使し、サステナブルな都市を実現する
- ・都市空間で最先端技術を実証していくための環境を整備。広大な東京湾の埋立地などを、最先端テクノロジーの「巨大実装エリア」として開放する

③ グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

- ・「Tokyo Green Finance Market（仮称）」の活用等により世界中のグリーンTech企業の集積を図り、グリーンやサステナブルをキーワードにした様々なプロジェクトを展開する

④ サステナブルな都市・交通ネットワークを充実

- ・人を中心にしたサステナブルな都市の実現に向け、地下鉄の事業化など都心や羽田空港等とのアクセスの飛躍的な向上や、ZEVなどを活用した公共交通モデルを構築する

戦 略 ①

ゼロエミッションの実現、水と緑 溢れる都市づくり

再生可能エネルギーやグリーン水素の活用など
によりゼロエミッションを実現するとともに、
緑を増やし、ベイエリアの水辺を豊かにする

- **100%クリーンエネルギーの都市づくり**を進める。ベイエリアならではの**風力発電や浮体式太陽光発電等の設備設置**や、スマートグリッドなどの**エネルギーマネジメントシステムの実用化**を進めていく。
- 建築物のゼロエミッション化、F Cモビリティの導入など**あらゆる分野の社会経済構造を脱炭素型へ移行**させ、持続可能な都市を実現する。あわせて、**域内交通を100%Z E V**とする。
- 公園や緑地の整備に加え、道路、建物など**域内のあらゆる場所で緑を生み出し**、人が自然を感じることもできる**豊かな水辺空間**を創出する。
- **シェアリングエコノミー**により、モノの所有や消費の概念を変革するとともに、**プラスチックをはじめとする資源の持続的な利用や廃棄物処理システムを確立**するなど、域内における**サーキュラーエコノミー**を実現する。
- 廃棄物処分場であった土地を、**地球環境と調和した理想的な環境空間**へと変え、**「自然の豊かさ」と「経済の豊かさ」が両立する**、世界に先駆けた都市を創造する。



戦 略 ②

最先端のデジタルテクノロジーを実装

官民を挙げ、日本の本気を魅せるデジタル技術を駆使し、
ベイエリアを、世界中から人が集まる
サステナブルな都市へと生まれ変わらせる

- **新しい価値を生み出し続けるエリア**とするため、最先端のテクノロジーと革新的なデザインにより、夢のある**未来の創造に取り組むスタートアップ**を積極的に活用し、エコシステムを形成する。
- 域内のデジタル化を進めるため、都有財産のアセット開放等により**5Gによる通信インフラ網をいち早く整備**し、自動運転、MaaS、キャッシュレスなど、**最先端テクノロジーの実装を進めるとともに、まち全体をショーケース化**していく。
- 広大な東京湾の埋立地などを、都市空間で**最先端テクノロジーを実装していくための「巨大実装エリア」**として開放する。
- **都市OSの構築**とともに、**VR空間に域内の都市機能を再現**し、カメラ映像や人流データなどと連結させ、**デジタルツイン**を実現する。また、行政手続はすべて手元の様々なデバイスで完結される。



戦略 ③

グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

「世界のグリーンTech企業」「ESG投資家」「SDGsの知」の3つの要素が集積する「ESGエコシステム」を創造し、東京を世界初のESG都市にアップグレード

- 「Tokyo Green Finance Market（仮称）」の活用等により、循環型社会の創造に取り組む世界中のベンチャーやスタートアップを集積させ、グリーンやサステナブルをキーワードにした様々なプロジェクトを展開する。
- ESGに積極的に取り組む企業の魅力を発信して世界から資金を集め、ベイエリアから東京を生まれ変わらせる。プロジェクトの成果を世界中に発信することで、更なる投資を呼び込む好循環を実現し、世界の金融ハブ「国際金融都市・東京」としての地位を確立する。
- 世界からESGを研究する高度な人材が集まり、研究拠点が形成されることにより、新たなイノベーションが生まれ、プロジェクトの深化や、ESG投資環境の活性化を促進する。



人を中心にしたサステナブルな都市の実現に向け、地下鉄の事業化など都心や羽田空港等とのアクセスの飛躍的な向上や、ZEVなどを活用した公共交通モデルを構築する

- **BRT、自動運転のモビリティや自動運行船**などによる域内移動や都心等とのアクセス向上を図るとともに、域内交通にゼロエミッションバス・トラックや燃料電池船を導入し、**ZEVなどを活用した公共交通モデル**を構築する。
- 人と水と緑に着目した公共空間の魅力向上を図り、**人中心の歩きやすい空間を創出**する。
- 地下鉄8号線延伸、羽田空港アクセス線などについて順次事業化に着手するとともに、**区部中心部と臨海副都心を直接繋ぐ、臨海地下鉄の事業化**に向けた検討を行っていく。また、第二東京湾岸道路や羽田空港の機能強化等について、早期事業化を推進していく。
- コンテナふ頭の整備・再編やA I等のデジタル技術を活用したコンテナターミナルの高度化により、**港湾物流の効率化を推進**する。
- 集中豪雨や台風、首都直下地震に備えた防災対策を実施し、**自然災害に強い（Disaster - Ready）都市を実現**する。



「東京ベイ e S Gプロジェクト」実現のステップ

臨海副都心

中央防波堤・新海面処分場

交通ネットワーク

ベイエリアから世界最先端を取り戻す

2021
～
2030

空間的広がりを活かしたデジタル都市

- 5G通信基盤の実装、実証フィールドとして都有地を提供
- ビジネス、交通、医療などの分野で革新的なサービスを提供
- スポーツ、ライブエンターテインメントの拠点を形成

テクノロジーの巨大実装エリア

- 大胆な規制緩和により、ドローン、空飛ぶクルマ、自動運転などの大規模な実装を展開
- 活用可能な都有地・水面にて風力発電や浮体式太陽光発電など、再生可能エネルギー関連の実証実験を展開

マルチモーダルな交通体系

- ZEV、燃料電池船等の活用により、域内の移動や、都心・羽田空港等とのアクセスを飛躍的に向上

アジアを代表するイノベーションセンター

2030
～
2050

デジタル×イノベーション都市

- プロジェクトの取組が進化し、交通、物流、医療、エネルギーなど世界初のイノベーションが次々と創出

スタートアップの集積拠点「Startup Village」

- テクノロジーの大規模実験が可能な環境の中に、国内外のスタートアップやショーケース機能が集積する一大拠点を形成

広域的な交通ネットワークの充実・強化

- 地下鉄8号線（豊洲～住吉）、臨海地下鉄（東京～有明）、羽田空港アクセス線

新しい価値を生み続ける世界のモデル都市

2050
～

世界に先駆けた22世紀型の未来都市

- 空や地下空間、海上、海中などあらゆる場所で生活できる22世紀型のまちにリプレイス

世界の玄関口として人々が交流する「海と緑と調和した都市」

- 大学やエンターテインメント施設、商業施設等が立地し、世界中の人・モノ・情報が集積する「東京の顔」

日本中と繋がる交通ネットワーク

- 第二東京湾岸道路
- 羽田空港の機能・アクセス強化

Step I（2021～2030）：バイエリアから世界最先端を取り戻す

カーボンハーフのまち

- ✓ 「Time to Act for カーボンハーフスタイル」の取組により、温室効果ガスを50%削減

グリーンファイナンスを活用したプロジェクトの展開

- ✓ 「Tokyo Green Finance Market（仮称）」等の活用によりグリーンTech企業が集積し、様々なプロジェクトを展開

ZEVを活用したマルチモーダルな交通体系

- ✓ ZEV、燃料電池船等の活用により、域内の移動や、都心・羽田空港等とのアクセスを飛躍的に向上

世界中の人々を魅了する「遊び場」

- ✓ ポップカルチャーから、食文化、伝統芸能、スポーツまで、リアルとバーチャル双方で楽しめる場



- ✓ 青海、有明地区にスポーツ、ライブエンターテインメントの拠点を形成

空間的広がりを活かしたデジタル都市

- ✓ 5G通信基盤の実装、実証フィールドとして、海上公園などの都有地を提供
- ✓ DXのいち早い実現により、ビジネス、交通、医療など様々な分野で革新的なサービスを提供

バイエリアならではのエネルギーの実装

- ✓ 活用可能な都有地・水面において、風力、浮体式太陽光発電、メタンガスの活用など、バイエリアならではの再生可能エネルギー関連の実証実験を展開

テクノロジーの巨大実装エリア

- ✓ 大胆な規制緩和により自由度の高い実験が可能なエリアとして、ドローン、空飛ぶクルマ、自動運転等の大規模な実装を展開

目指す姿のイメージ : Step I

ポテンシャルを活かしたプロジェクトの展開

- 臨海副都心エリアのポテンシャルを活かし、先端技術の実証実験や、5G基盤の整備、スタートアップの集積などの先行プロジェクトを展開



舟運の活性化



自動運転・AI交通管制

東京国際クルーズターミナル



都産技研

東京ビッグサイト



サービスロボット

完全キャッシュレス

医療DX

域内公共交通のZEV化



海の森公園・海の森水上競技場

エネルギー関連の実験などを展開

- 中央防波堤エリアの特性を活かし、都がフィールドを提供し、エネルギー（風力・浮体式太陽光発電、メタンガスの活用等）やごみ処理関連の実験などグリーンTechの取組を展開



技術力の高い企業との連携



最先端テクノロジーの実装

Step II（2030～2050）：アジアを代表するイノベーションセンター

ゼロエミッションのまち

- ✓ 域内使用エネルギーの**100%脱炭素化**

デジタル×イノベーション都市

- ✓ プロジェクトの取組が進化し、**交通、物流、医療、エネルギー**など**世界初のイノベーション**が次々と創出

スタートアップの集積拠点「Startup Village」

- ✓ テクノロジーの大規模実験が可能な環境の中に、**国内外のスタートアップ**が集積する**一大拠点を形成**

水と緑を楽しめるまち

- ✓ グリーンT e c hによる水質改善の取組等を後押しし「**泳げる東京湾**」を実現
- ✓ ベイエリアの「空」と「海」を満喫できる**キャンプサイト**など新たな魅力を発信

交通ネットワークの充実

- ✓ **地下鉄8号線延伸、臨海地下鉄、羽田空港アクセス線**

Step III（2050以降）：新しい価値を生み続ける世界のモデル都市

世界に先駆けた22世紀型の未来都市

- ✓ 空や地下空間、海上、海中などあらゆる場所で生活できる**22世紀型のまち**にリプレイス

世界の玄関口として人々が交流する「海と緑と調和した都市」

- ✓ 大学やエンターテインメント施設、商業施設等が立地し**世界中の人・モノ・情報が集積する「東京の顔」**

食文化×テクノロジー

- ✓ 植物工場や江戸前の魚など、**輸送に頼らない都市の食文化**をテクノロジーで実現（Disaster - Readyにも寄与）

交通ネットワークの充実

- ✓ **第二東京湾岸道路、羽田空港の機能・アクセス強化**

目指す姿のイメージ：Step II・III

22世紀型未来都市



水と緑を楽しめるまち



泳げる東京湾



空と海のキャンプサイト

ゼロエミッションのまち



食文化×Tech

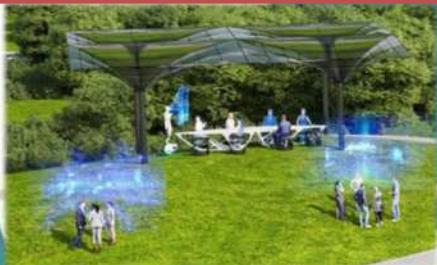


フードTech



江戸前の魚

Startup Village



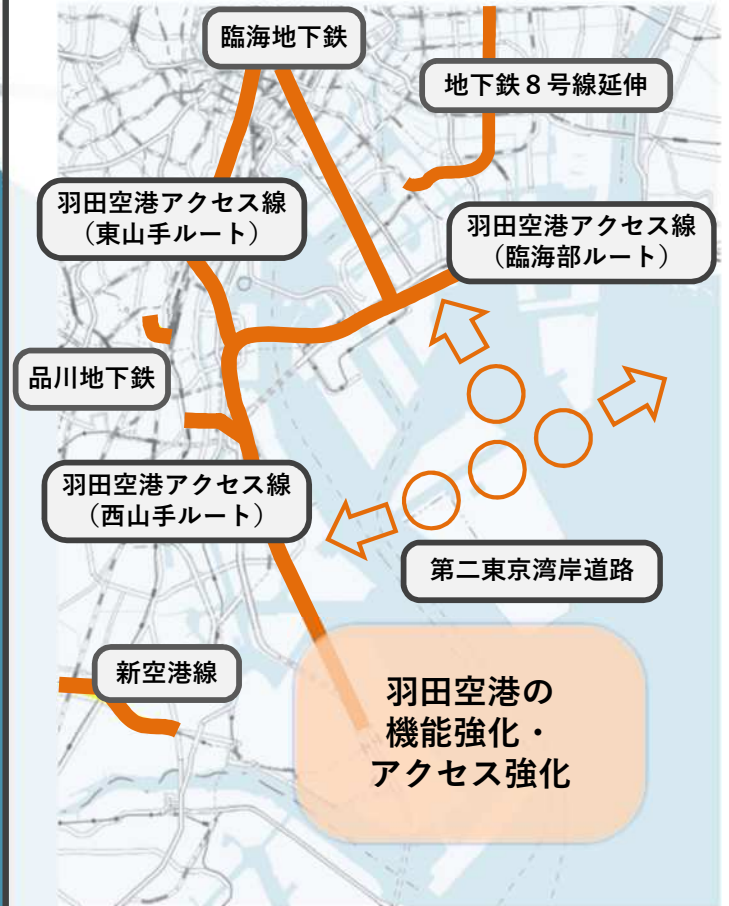
海と緑と調和した都市



両エリアの機能が融合し、
アジアを代表するイノベーションセンターに

ベイエリア周辺の交通ネットワーク

○都心・羽田と直結することで、ベイエリア
の可能性を更に広げていく



※ 国土地理院Vectorを加工して作成

「東京ベイ e S Gプロジェクト」の今後の展開

- 「ドラフト」の公表以降、関係する自治体や民間企業、団体から幅広く意見を聞くとともに、有識者から50年・100年先を見据えた大胆な発想に基づく意見を聞き、プロジェクトの「Version 1.0」を策定した。
- 今後、具体化した将来像の実現に向け、**様々な主体との連携体制を構築**し、令和3年度から速やかに取り組むべき**「先行プロジェクト」に着手**していく。
- あわせて、民間開発の誘導方針などの具体的な取組を示す、**まちづくり戦略**を定め、**プロジェクトを更に推進**する。
- また、時代や状況の変化に応じて、**プロジェクトをアジャイルし、戦略的にバージョンアップ**を図っていく。

「東京ベイ e S Gプロジェクト」 (Version 1.0)



実装する過程の中で**プロジェクトをアジャイル、バージョンアップ**

先行プロジェクト：臨海副都心エリア

スマート東京先行実施エリア

・臨海副都心エリアのポテンシャルや多様な魅力を活かしたプロジェクトを展開

○ 先端技術の実装を強力に推進

- ・自動運転の実装に向け、事業者のビジネスモデルの構築を支援。未処分地等を**実験スペース**として提供
- ・**5G通信基盤の整備**に向け、海上公園などの公有地を実装フィールドとして提供
- ・**スタートアップ等の進出を支援**し、ベイエリアへ集積

○ 大会レガシーを生かした魅力発信

- ・水辺の魅力を活かし、**有明レガシーエリアに船着場を整備**
- ・「**有明アーバンスポーツパーク**」や、都民が水辺に触れ親しめる**大会のレガシーを活かした記念公園を創造**

○ スポーツ・エンタメ拠点を形成

- ・**青海地区、有明地区**に拠点を形成し、賑わいを創出

○ 商用F Cモビリティを実装

- ・F Cバス以外の**商用F C車両の実装**に向けた取組を展開



具体的な取組	年次計画			
	2021年度	2022年度	2023年度	～2030年度
先端技術の実装	自動運転のビジネスモデル構築・実験スペースの提供			自動運転サービス等
	5G基盤整備・実装			
	スタートアップ企業の進出支援			
レガシー魅力発信	舟運アクセスの検討・整備			
	レガシー施設整備・運営開始			
スポーツ・エンタメ拠点	整備			順次開設
商用F Cモビリティ	検討	実証実験・実装		

先行プロジェクト：中央防波堤エリア

・都がフィールドを提供し、グリーンT e c h企業等によるエネルギー関連の実験などを展開

○ テクノロジーの巨大実装エリアを創出

- ・大胆な規制緩和により自由度の高い実験が可能なエリアとして、**テクノロジーの大規模な実装を展開**
- ・中央防波堤エリアを中心とした**活用可能な都有地・水面**において、新たな技術開発等に取り組む**スタートアップ企業**を都がバックアップ
- ・センサー等のデータ収集基盤の整備やオープンデータ化、自動運転等を活用した周辺からのアクセス向上策を検討
- ・新たな価値を創造し続ける、エコシステムを形成

具体的な取組	年次計画			
	2021年度	2022年度	2023年度	～2030年度
エネルギー等の実験場	スキーム検討 サウンディング	事業者公募	実証実験	
データ収集基盤の整備	検討	整備		運用
実験場への新たなアクセスの検討	スキーム検討 サウンディング	事業者公募	運行	

ベイエリアならではの実験場



○廃棄物処分場としてできる限り長く活用しつつ、法的・技術的な制約を踏まえ、当面は、実装エリアとして活用
○将来的に、この**エリアの特性を生かし**、ここでしか体験できない、海と緑に囲まれた**自然と調和した未来の都市**を実現

バイエリアから世界へ 「人類の未来の水準点となる都市の姿を世界へ広げる」

サステナブル・リカバリーの観点から、産業・経済・文化を含めた社会全体の変革・発展につながる
東京ベイ e S Gの都市モデルを、世界へ発信していく

バイエリア⇒東京

21世紀のあるべき
都市像を実装する



日本のモデル

日本中に成果を
波及させる



世界のモデル

バイエリアが
未来の水準点となる

